



TITLE:

表紙・目次・編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次・編集後記. 公共空間 2009, 3

ISSUE DATE:

2009

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/143642>

RIGHT:

本誌掲載の写真・イラスト・記事の無断転載・二次利用はお断りいたします

公共空間

2009 Autumn

特集 日本農業の進む道

— 日本の農産物貿易と食料安全保障

京都大学公共政策大学院教授
今久保 幸生

— 現場レポート

京都発・新たな農業の担い手たち

本誌編集委員

— 日本農業を考える論点

本誌編集委員

～Essay～

公共政策をどう学ぶか

京都大学公共政策大学院教授
楠 壽晴

地方教育行政の現場から

京都大学公共政策大学院一回生
鈴木 千鶴子

～座談会～

選挙戦を語る

～学生投稿～

国内貨物輸送における現状と公共政策について

京都大学公共政策大学院一回生
城谷 智樹



『公共空間』編集委員会

京都大学公共政策大学院

Kyoto University School of Government

★編集後記★

「立場が人を作る」と言いますが、今回編集長を務めさせて頂いた感想としては、「立場を周りの方々に作って頂いた」という感じが強いです。本当に周りの方々に恵まれて、なんとか完成まで辿り着きました。公共空間に関わってくれた全ての方々に感謝します。(梅)

最近読んでる本は、ノーベル賞作家ソルジェニーツィンの「収容所群島」。内容は、ソビエトの収容所での極限の経験。全六巻で計2500ページ。少しずつ読み進め、この号の完成までに読了出来そうです。借りたい人は是非……って、そんな物好きいるはずないか。(野)

先日、編集長と人生最後に何を食べたいかについて話した。編集長はシュークリームらしい。見かけによらずなかなかカワイイ趣味をしている。私はやっぱりカレーかな。あとポカリ。(大)

2009年春号を手にとってから、早いもので半年が過ぎようとしています。この号から編集委員に加えていただいて、めっちゃくちゃ楽しかったです……ありがとうございます!!(川)

「教育とは学校で習ったことを悉く忘れた、その後に残っているものをいうのだ。」公共政策大学院の二年間で何を学ぶか、『公共空間』は多くの示唆を与えてくれるでしょう。(寺)

子曰く、学びて思わざれば、則ち罔し。思いて学ばざれば則ち殆し。小誌が、読者諸氏にとって、「学び」かつ「思う」一助になるならば、編集委員として至高の喜びであります。(長)

編集の場面で、紙面の制約の中で執筆者の考え・思いを反映させる難しさを痛感したことが最も印象的だった。困難もあったが、みんなの協力で乗り越えられたのでよかったと思う。(蛭)

『公共空間』 二〇〇九年 秋号

発行人 『公共空間』編集委員会

編集長 梅原 悠太

副編集長 野口 裕明

編集委員 大西 健

川井 三希子

寺井 裕介

長谷川 智史

蛭間 政広

編集顧問 大石 眞

編集協力 小屋敷 浩

木幡 飛一

津田 裕亮

西村 晃代

京都大学公共政策大学院『公共空間』編集委員会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学 法学公共政策大学院掛

TEL 075-753-3126

本誌掲載の写真・イラスト・記事の

無断転載・二次利用はお断りいたします

雑誌『公共空間』学生投稿募集について

雑誌『公共空間』は学生投稿枠を設け、皆さんの原稿を募集します。

募 集 要 綱

1. 内容

①特集テーマ投稿

『公共空間』では、各号特集を組む予定ですが、そのテーマに沿った内容で募集します。特集内の他の論文との重複を避けるなど、内容面で若干の制約を設ける場合があります。

②自由テーマ投稿

公共政策に関するものであれば、テーマは自由です。授業で作成したレポートやプレゼンテーション資料を用いてもらっても構いません（ただし、文書形式でお願いします）。

2. 字数と書式

A4で3から4ページ分、字数に換算して4000～5500字。

3. 応募締め切り

各号毎に締め切りを設定します。

4. 応募条件

本公共政策大学院に在学する学生であること。

5. 応募宛先

件名に『公共空間』特集テーマ投稿／自由テーマ投稿応募」と明記の上、
koukyoukukan@yahoo.co.jp まで、ご連絡下さい。
なお、その際におおまかなテーマについてもお伝え下さい。

6. その他

応募多数の場合などは、編集部での協議の上、執筆者、掲載原稿を決定させていただきます。

